

・家族をつくりたい

— 子どもの頃の夢は何でしたか？

とにかく遊ぶことしか考えていませんでした(笑)。親を早く亡くしたので、家族への憧れがありました。早く自分の家族をつくりたいと思っていましたね。

創刊号特別編

佐賀県で多数の店舗と4つの会社を運営するアンジェルクス株式会社の代表取締役 千住英正さんにお話を伺っています。



HIDEMASA
SENJYUU

アンジェルクス 株式会社 千住 英正

profile [プロフィール]

[せんじゅう・ひでまさ]

1975年生まれ。佐賀県生まれ。佐賀県在住。ステーキまる、マハトマテイクアウトショップ、リサイクルショップや古着屋、マッサージ店など多数の店舗を経営。従業員数約40人。面接の時に大事にしているのは「波長が合うか」その一点を大事に採用している。趣味は、飲むこと、ドライブ。ドライブは長距離ではなく、短い距離、まちなかをちょこちょこドライブするのが好き。リセットできるし、新しいお店を発見したり情報収集もしている。座右の銘は、徹頭徹尾(てつとうてつび)最初から最後まで貫くこと。最後までやり遂げるという意味。



・いろいろな職業を経験し、良い経験に

— 起業する前はどんなことをされていたのですか？

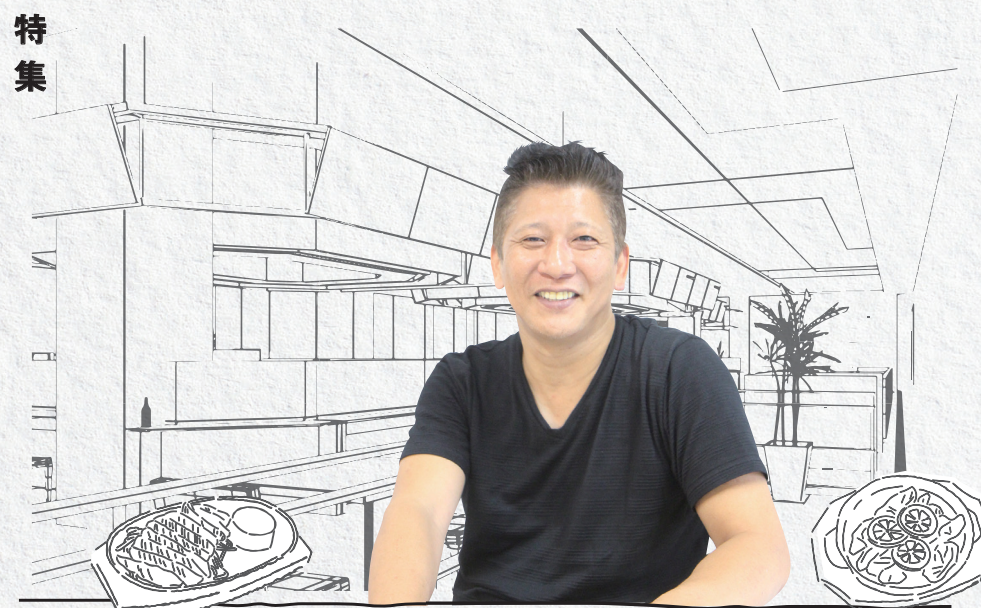
様々な仕事をしてきました。飛び込み営業、訪問販売、工事現場などで働いていました。飲食店の経験はありませんでしたが、逆にそれが飲食業をするきっかけになったのかもですね(笑)。様々な職業に就いてきたことは、色々なことを見れたのでとても良い経験になりました。周りの人たちからは、とにかく展開が早いと言われます。

・佐賀はずっと住みたい場所

— 千住さんにとって佐賀はどんな場所ですか？

生まれも育ちも佐賀で、とにかく佐賀が好き!ですね。人口が増えないのが一番の悩みですが、ずっと住みたい場所ですし、自然も多く落ち着きます。

「せんとわからん!」が モットー



・バイト三昧の学生時代

— どんな学生生活でしたか？

親がいなかったため、高校に行かないという選択肢もありましたが、「学ぶことは今しかできない」という思いで、高校まで卒業しました。学費は自分で稼いでいたので、とにかくバイト三昧でした。バイトがあり授業を遅刻することはよくありましたが、休んだことは一度もなく、高校は皆勤賞でした。きつくて大変でしたが、友達たちと過ごすこと、学生生活をしていることが純粋に楽しかったんです。ボクシング部にも所属してキャプテンもしていました。

・起業してからはお金もなくて苦労の連続

— 起業してどれくらいになりますか？

今年で21年目になります。奥さんと二人で古着屋からのスタートでした。ネット販売をしていましたが、人と会うのが好きなので対面のお店を作りたくて自分たちで自宅を改装しました。お金もない場所もメイン通りから奥まっていたので、周りからも「こんなところでしても…」と止められました。完成すると、まずはお店を知ってもらいたい!という思いでチラシを制作して、一日1,000枚を目標に配りました。本当にお金もなくて苦労の連続でした。徐々に周りにも知っていただき、今、古着屋の店舗はメイン通りに在ります。